

# 「小中一貫」を 目指す 教育への挑戦

夢と希望に満ちた  
学校を目指して

—豊かな自然体験のできる学校です。少人数によるきめ細かな指導で確かな学力をつける学校です。小中交流活動で人間関係力を磨き、たくましく生きる力を養う学校です。小中一貫という新しい教育の創造を目指し、夢と希望を胸に、地域の方々や保護者と一体になって日々努力する教師のいる学校です。

こう訴えながら、平成19年8月、教職員と保護者で三日をかけて、市内の全幼稚園と保育園・保育所を訪問しました。私の胸中にあった願いは、単式学級のもとで、子どもたち一人ひ



みんなで作ったこいのぼり

とりが真に主人公になる学校をつくりたい、これだけでありました。

日浦地区は、松山市内から車で約30分の山間部。過疎化、少子化により、複式学級が進み、平成13年度には入学者ゼロとなりました。事態を心配した地域の要請により、平成15年度より通学区域弾力化の特別枠として、市内から児童生徒を募集し、スクールバスも運行することに

なりました。この取り組みの旗印が「小中一貫」でした。

現在、日浦小中学校の児童生徒数は75名です。そのうち55名(73・3%)が、日浦地区外からの通学生です。日浦小学校は、平成19年4月、30年ぶりに全学年単式学級となりました。



武田 峰紀  
松山市立日浦小学校・中学校校長

## ● 小中一貫をめざした取り組み

### ① 日浦小中の目指す「四・三・二制」と交流授業体制

教育課程編成の工夫として、児童生徒の心身の発達段階を考えて、義務教育の9年間を4年、3年、2年の三段階とし、それぞれ「基礎期」「充実期」「発展期」としました。学年や小中を越えた学習集団づくりに柔軟に対応し、高い学力を身につけた子どもたちの学ぶ、小中一貫を目指した新しい学校づくりを進めるためです。

教科の指導は、1年から4年生は従来どおり学級担任による指導を中心とし、基礎基本の学習の充実と徹底を図ります。5・6年生は、児童の個性や能力を伸ばす学習を重視し、発展的な学習を強力に推進するために、教科担任制を積極的に導入しています。

教師の指導体制としては、小中を兼務する6人の教諭が年間を通じて小中交流授業を行っています。現



小学校教諭による体育の授業



松山市連合音楽会

在5・6年生の教科担任制は、ほぼ確立できており、国・社・算・音の四教科で中学校教員が専門性を生かした授業を行っています。

また、音楽は中学校教員が、保健体育は中学校免許をもつ小学校教員が、小1から中3まで全学年の指導をしています。

## ② 平成19年度の実践

児童生徒に豊かな情操を育てるために、感動を共有する体験の場として、「日浦緑の少年少女合唱団」を設立し、「歌声が谷間に響く学校づくり」を進めています。

また、「一人ひとりが違っていい、みんな高い」との精神で、見方・考え方を認め高める場として、「つながりを深め、表現

力を伸ばす話し合い活動の研究」を進め、身についた話し合いのスキルが次の学年に生きるよう工夫し、「小中一貫」の指導

となるように定着を図っています。

さらに、「ひうら学びのすすめ」を作成し、家庭と連携して指導しています。生活習慣と学習習慣は人生を自らの力で切り開いていく力として大切な力で、私はこれを「習慣力」と呼んでいます。この習慣力を身につけるために、9年間のスパンで、系統的・組織的・継続的な指導を行い、学力向上への努力を続けています。

## 学校から広がる地域活性化の輪

### ① ひうらコミュニティづくり

市内全域から通学する子どもたちの個性や価値観、居住、生育環境は、千差万別です。また、入学前のつながりは、子どもたちも保護者もありません。

このため、学校を中心とした「ひうらコ



ひうら学びのすすめ

ミュニティー」創出に向けて、「読書」「歌声」「田んぼ」など、様々な学習や活動の場で、市内全域の保護者や日浦地域の教育力を、学校教育の中に取り入れる活動を行っています。

## ② 地域に「元気」を届ける

子どもの元気な声を取り戻した日浦地区には、多くのお年寄りがいます。本校では、いつも子どもたちを温かく見守っていたらいい地域の方に「元気」を送り届けようと、学校田で作ったお米を小学生が独居老人に届ける活動をしています。また、日浦の「いきいきサロン」の方々と一緒に行う日浦花いっぱい運動も実施しました。

## 子どもたちの心のふるさと なる学校づくりへ

「小中一貫」の日浦小中学校が、子どもたちの中で「心のふるさと」となったとき、ここで学んだすべてのことが、卒業後の人生において出会うであろう苦難を乗り越え、自己の道を切り開いていく力となると信じています。

私たちの「小中一貫」を目指す教育は、始まったばかりです。夢と希望の道を子どもたちとともに、ひたすら歩みたいと念じています。